

村落組織と祭祀 ～埼玉県比企郡小川町竹沢地区上勝呂～

松本 有加

1. 調査地の概況

小川町は埼玉県中央部、外秩父山地の東縁部にあたり、槻川・兜川流域の小川盆地に位置する。現在の小川町は昭和30年に小川町、大河村、竹沢村、八和田村の一町三カ村が合併して誕生した。勝呂は竹沢地区に所属し、兜川上流域の山間部に位置する（図1）。生業は畑作を中心とした農業で、以前は紙漉きや養蚕も行っていた。特産物として水囊（うどん揚げ）がある。また勝呂は上勝呂と下勝呂に分かれており、調査対象地区の上勝呂は北東に西浦川が流れ、北西に流れている兜

川と合流する（図2）。上勝呂の人口は298人の91世帯（平成17年10月現在）となっている。上勝呂における鎮守は白鳥神社で、寺院は西光寺であったが、廃仏毀釈の際取り壊されてしまったため各家の檀那寺は村外にあるかもしくは神葬祭となっている。

2. 上勝呂における村落構成

上勝呂では平成17年現在11班で構成されている。「班」とは居住の近接性によって結びつく家々の連合組織のことで日本全国各地に見られ、「班」以外に「組」「組合」「隣組」

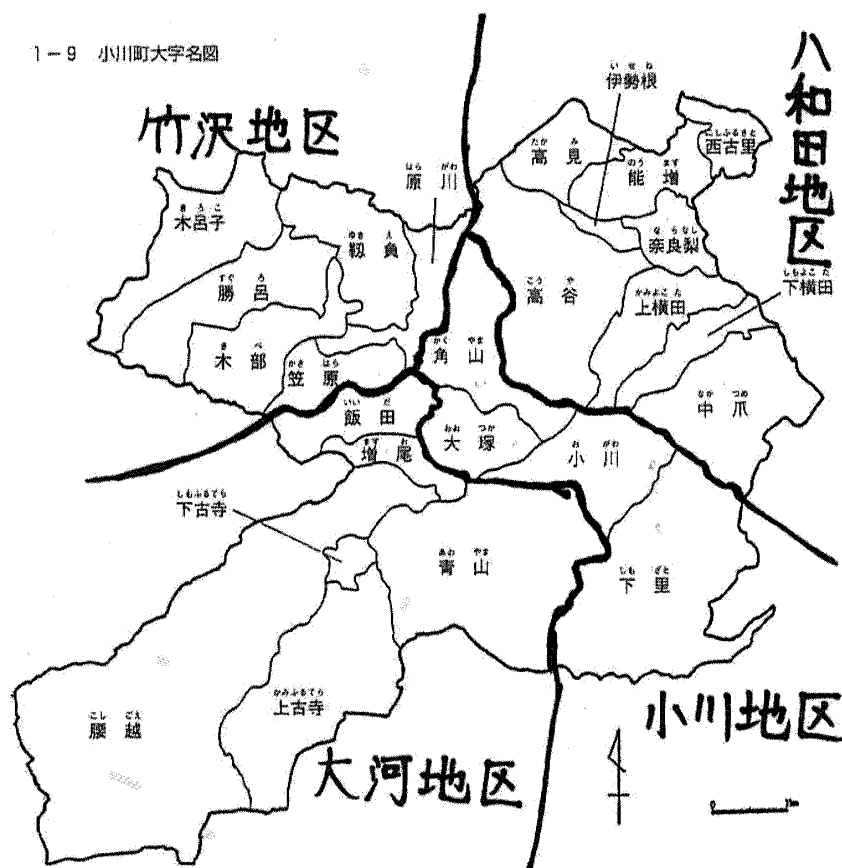


図1 小川町大字名図（出典：『小川町の歴史 別編 民俗編』より筆者が加筆した）

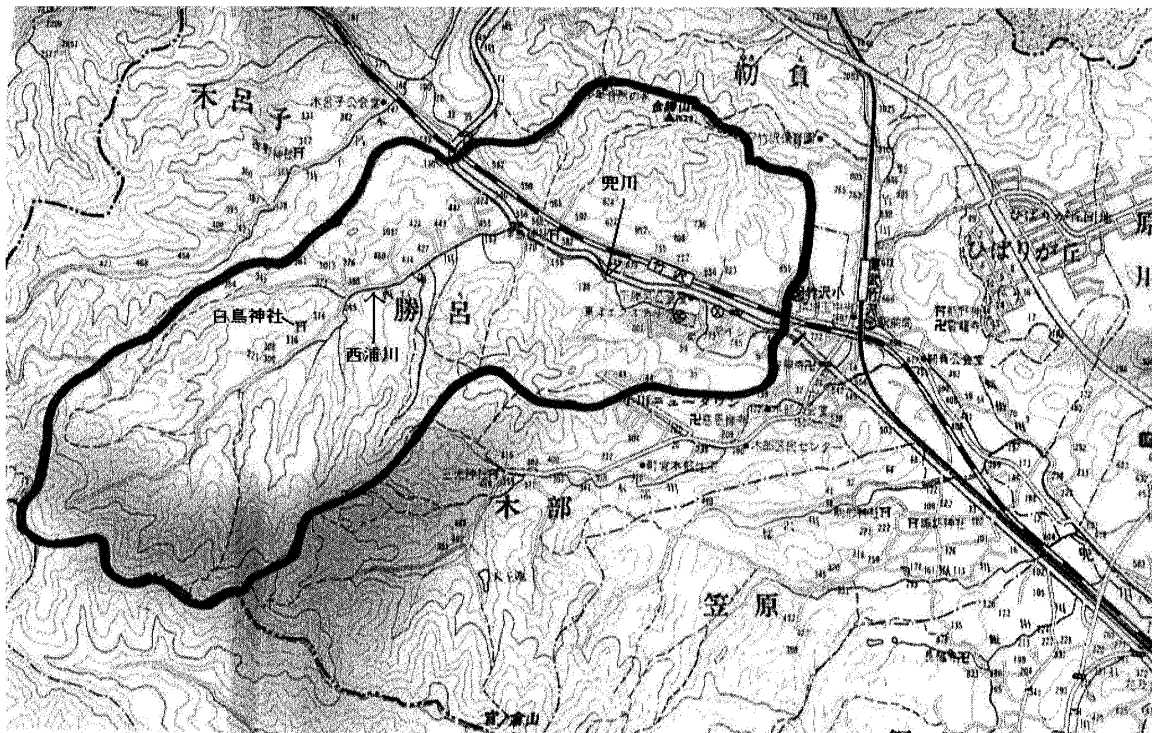


図2 勝呂 (出典：「小川町都市計画図」より筆者が加筆した)

という言い方がある。班の役割としては農作業や屋根葺き、道普請、葬式等における相互扶助を行う。また共同祭祀や各種の信仰的な講が組織される単位にもなる。上勝呂は更に上組と下組に分かれる。1～6、11班を下組、7～10班を上組としている。なお11班は新しく来住した家を中心に構成されており、昭和50年頃に加えられたものである。また上組は別名「西山組」とも呼ばれている。

以下上組（西山組）と下組について、祭祀を中心に述べていきたい。

3. 上組（西山組）

上組は先ほど述べたように「西山組」とも呼ばれ、住民にとっては西山組の呼び方が定着している。よって以下上組のことは西山組と表記する。西山組では西山組内で様々な助け合いや、祭祀を行ってきた。もちろん

現代では農作業や屋根葺きの手伝いは見られなくなったが、祭祀においては今でも班内で行われている。ここでは西山組で行われている、もしくは行われていた三つの祭祀を紹介したい。

(1) 薬師

西山組では薬師の祭祀を毎年10月に薬師堂にて行っている（写真1）。現在は年1回だが、昭和40年頃までは8月にハツヤクシ、10月にナカヤクシ、冬にシマイヤクシとフドウゴモリの年4回の祭祀が薬師堂で行われていた。この4回の中でも10月のナカヤクシが一番盛大に行われ、大きい家で替女を呼んだり、浪花節を歌ったりと様々な余興が行われていた。この日は薬師堂でオコモリを行い、現在は昼間のみだが以前は一晩中飲んだり、食べたりして過ごしたという。

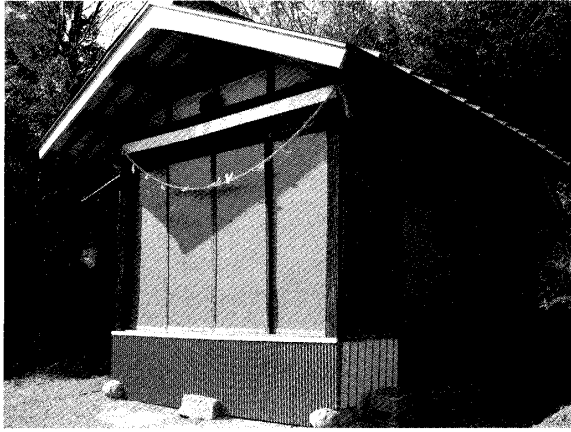


写真1 薬師堂

(2) 八十八夜講

毎年5月初旬の日曜日に西山組の人々は上勝呂会館に集まり、八十八夜講を行っている。昔はこの八十八夜講のことを「遊び講」や「若衆講」とも言っていた。この日は西山組の運営に関わる協議をしたり、土葬の穴掘り当番や山の神の係などを決めたりするほか、一同で飲んだり食べたりする日である。その年の当番の家としてヤドが毎年輪番制でまわってくる。現在は上勝呂会館で行っているが、昭和50年頃まではその年のヤドの家で行っていたという。そしてヤドの家の者は集まった人に対して朝食は赤飯、昼食は混ぜご飯、夕食はうどんなどの料理を作りふるまわなければならなかった。また一日かけて行っていたときは、午前中は花札や将棋などをして過ごした後、先ほどのような議事を行っていたという。

(3) ニヤサマ (二十二夜講)

昭和15～16年頃まで11月くらいに西山組の女性のみで行われていた女人講である。この祭りもヤドの家が輪番制でまわってくる。当日はヤドの家に観音様の掛け軸を掛け、その家でニヤサマを行った。ニヤサマはお産の神様とされている。現在ニヤサマは行われな

くなくなってしまったが、観音様の掛け軸が現在でも薬師堂に保管されている。

このように現在は年1回の薬師と八十八夜講のみになってしまったが、年4回の薬師様と八十八夜講、二十二夜講と年に何回も西山組で祭祀を行っていたのである。

4. 下組

上組が西山組としてまとまって祭祀を行っているのに対し、下組ではそのような下組全体での祭祀は見られない。しかしそれに代わって下組では本家・分家間の連帯性が西山組よりも強く、家同士で連合し祭祀を行っている例が多い。このような本分家関係からなる家々の集団のことをここでは「イッケ」と呼んでいる。下組ではその本分家関係からなるイッケ集団が現在落合イッケ、田端イッケ、山口イッケの3つ存在している。ここでは各イッケ集団を紹介すると共に、それぞれのイッケ集団で行われている祭祀を紹介したい。

(1) 落合イッケ

落合イッケは本家と分家7軒で構成されている。1軒のみ下勝呂に居住しているが、あとの6軒は上勝呂の下組に居住している。落合イッケは落合イッケ専有の墓地を所有し、7軒すべて隣村の玉川村にある曹洞宗円通寺の檀家である。また落合イッケは持仏堂として観音堂を所有し、それは墓地の隣にある。落合イッケは稲荷と観音の2つの祭祀を年に1回イッケのみで行っている。

①稲荷

3月の初午の日に本家の近くにある落合イッケ専有の稲荷社の前で稲荷の祭りを行う(写真2)。ヤドの家が毎年輪番制でまわって

くる。ヤドの家は酒や豆腐を用意し、当日は社の前にシートを敷きそこで飲食する。稲荷の祭祀は各家1人参加すればよく、13:00から正味一時間程度で終了する。



写真2 落合イッケ稲荷社

②観音

10月10～15日くらいの休日に観音の祭祀が観音堂にて行われる(写真3)。稲荷の祭祀と同様にヤドの家が輪番制でまわってくる。ヤドの家はお堂の飾り付けや寿司や豆腐などの食事の準備をする。13:00に観音堂に集合し、お祭りが始まる。本家の「オヒマチを始めます」の一言で祭りが開始され、まずは皆で「観音十句」¹⁾を唱和する。乾杯をヤドの家が行い、食事が開始される。そして飲んだ



写真3 落合イッケ観音堂

り食べたりして二時間ほど過ごす。シメを次の年のヤドの家が行い、解散となる。観音の祭祀は稲荷の祭祀と違って、夫婦二人で参加するのが望ましいとされている。

(2) 田端イッケ

田端イッケは8軒で構成されている。8軒すべて下組に居住している。田端イッケはすべて寄居町にある真言宗不動寺の檀家である。田端イッケでは田端イッケ専用の稲荷社で稲荷の祭祀を行う。

①稲荷

本来は3月の初午の日に行うが、現在は会社勤めをしている人が多いため3月の第二日曜日に田端イッケ専用の稲荷社で行っている(写真4)。当日は稲荷社の前にテーブルを置いて、そこで飲食をして直会をする。当番の家が輪番制でまわってきて、団子やご馳走を用意する。お稲荷様には油揚げをお供えする。



写真4 田端イッケ稲荷社

(3) 山口イッケ

山口イッケは6軒で構成されている。3軒は上勝呂の下組に居住しているが、あとの3軒は下勝呂に居住している。山口イッケも田端イッケと同様に、寄居町にある真言宗不動

寺の檀家である。山口イッケでは山口イッケ専有の神明社にて神明の祭祀を行う。

①神明

毎年4月中旬に山口イッケ専有の神明社にて神明の祭祀を行う(写真5)。以前は神主に頼んで祝詞をあげてもらっていたが、現在は山口イッケで神明社にお参りに行くのみとなっている。その後、当番の家で食事をしてオヒマチを行う。

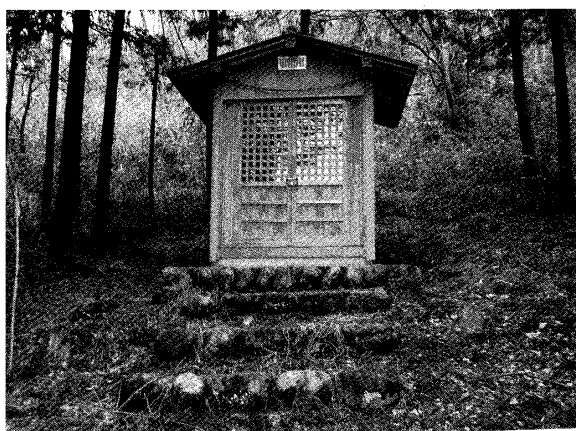


写真5 山口イッケ神明社

①阿弥陀

毎年10月20日に阿弥陀堂にて行われる(写真6)。各家男性のみの参加となっている。ヤドの家が輪番制でまわってくる。昭和40年くらいまで材料を全戸から集めて料理をヤドの家が作ったり、お餅をついていたりしたが現在はお店に頼んで食事を出すようになってしまった。その日はお酒を飲みながら、昔話などをして過ごすという。



写真6 阿弥陀堂

(4) 1.2班と山口イッケ

この他、イッケのみの祭祀ではないが班とイッケ合同で行っている祭祀が下組には存在する。それは1班と2班、および山口イッケで行っている阿弥陀とニヤサマ(二十二夜講)の祭祀である。1班は田端イッケの中の6軒で構成され、2班は田端イッケの中の2軒と他姓3軒で構成されている。2班の中の他姓3軒は同じ班だから一緒に行っているが、山口イッケは3軒が下勝呂に居住し、また上勝呂に居住している3軒は6班に属しているので同じ班として参加しているわけではない。山口イッケは田端イッケと同じ寺の檀家だから一緒に行っているという。

②ニヤサマ(二十二夜講)

毎年10月22日に阿弥陀堂にて行われる。阿弥陀の祭祀とは逆に女性のみの参加となっている。やはりヤドの家がまわってくる。昔は女性は労働力として考えられていたので、この行事は女同士でおしゃべりをして日々の鬱憤を晴らす一つの楽しみだったという。また当時は阿弥陀の祭祀に夫が参加できない場合は妻が代理で参加しても良かったが、ニヤサマはたとえ妻が欠席したとしても夫が参加することはなかったという。

註1 「観音十句」とは「延命十句観音経」のことで「観世音 南無佛 與佛有因 與佛有縁 佛法僧縁 常樂我淨 朝念觀

世音 暮念観世音 念念従心起 念念不
離心」と皆で唱える。これは10年くらい
前からイッケ内のある家の提案で唱和
するようになったという。

参考文献

小川町 2001 『小川町の歴史 別編 民俗
編』

(写真はすべて筆者撮影)